

学校教育目標		知・徳・体の調和のとれた心豊かで実践力のあるたくましい南っ子の育成		重点目標	お互いの考えを交流しみがき合う子どもの育成			
重点目標	評価計画		自己評価		学校関係者評価			
	重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	成果指標	評価	結果 (成果と課題)	コメント		
重点目標に 関する 評価	お互いの考えを 交流しみがき合う 子どもの育成	○自分の考えを操作や絵図、式、言葉で表現する場の設定 ○ノートを書式を統一、考えを順序立てて書く、根拠が分かるように書く ○書いたことを基に、二人組やグループで考えを説明し合う場の設定 ・交流活動の形態の工夫 ・交流の視点の明確化 ・考えや根拠を比べ合う ・思考ツールの活用により視覚化 ・板書やノートに思考を整理	・ノートに自分の考えを絵図や式、言葉で書くことができる。 達成率 低70% 中75% 高80%以上 【低学年】 ・ノートに書いた自分の考えを順序を表す言葉 (はじめに、次に、最後に) を使って説明できる。 達成率 80%以上 【中・高学年】 ・ノートに書いた自分の考えを根拠を表す言葉を使って説明できる。 達成率 70%以上	4 4 4	○ノートに考えを書く場を設定することはできた。 △書くための手立ての工夫が必要 ○考えを高め合う交流活動を設定できた。 ○ペア、グループ、全体でノートや黒板に書いた図等を指さしながら説明することができるようになった。 △交流の視点の明確化、交流の必然性を感じさせる発問の工夫	A A A	○学校の自己評価は適切である。 ○ノート指導が板書計画とつながり重要であることがわかった。 ○達成率の高さに感心した。 ○学習面において、全ての項目で達成率を超える成果が出ており、評価は適切と判断した。 ○ペアやグループ、クラス全員で意見や考えをまとめ、それを発表できる力が身につけてきたことが分かった。評価は適切であると思う。	○自分の考えを筋道を立ててノートに書く指導を継続していく。 ○発達段階に応じたノート指導の育成計画等を明確にしていく。 ○発達段階に応じたペア、グループでの交流活動を継続していく。 ○算数科以外の学習でも、交流活動を設定し、自分の考えを根拠をもとに説明する活動を取り入れていく。 ○交流の必然性を感じさせる発問の工夫や交流の視点を明確に示す。
		○書いたことを基に全体で交流し、考えをみがき合う場の設定 ・発言をつなぐ活動の設定 ・発問の工夫	・友達の考えを聞いて、質問したり意見を言ったりすることができる。 達成率 60%以上	4	○交流の型を意識して授業づくりをしたため、考えの共通点や差異点に着目させるなどの工夫ができた。	A	○学校の自己評価は適切である。 ○低・中・高学年ごとの目標設定による組織的な取組がなされていた。	○本年度研究で取り組んだ成果を生かし、交流を意図的に仕組むことで、考えをみがき合わせる。
		○児童主体の問題解決型の授業の積み上げ (つかむ、見通す、調べる、まとめる) ○アクティブラーニングの推進 (主体的・対話的で深い学び)	・算数の年度末 NRT で「数学的な考え方」の観点別平均が全国平均を上回ることができる。達成率 65%以上	3	△教師の話の短くし、児童が主体的に考え、進めていく学習への転換を目指す。	A	○学校の自己評価は適切である。 ○児童が考えの違いを論じ合うことは将来大切な力になってくると思う。	○児童の発言をつなぎながら考えを高め合うための発問の工夫を行う。
		○二人体制による基礎タイム (月、火、木、金) の実施 ・基礎的な計算技能の習得	・算数単元テスト (技能) の期待得点を上回ることができる。 達成率 80%以上	4	○基礎タイムや家庭学習により計算問題の反復練習に取り組むことができた。	A	○達成率が8割を超えており評価は正しいと思う。高学年の今後に期待したい。	○技能の習得を目指すための時間の設定や内容の充実を図る。
		○四人体制による拡大基礎タイム (月1回) の実施 ・習熟度別グループによる個別指導	・算数の単元テスト (思考) の期待得点を上回ることができる。 達成率 80%以上	4	○少人数による習熟度別指導が効果的であった。	A	○学校の自己評価は適切である。 ○少人数学習による丁寧な指導が効果的であったことが分かる。	○今後も少人数学習を継続して欲しい。
		○ESDにつながる体験的活動を基にした生活科・総合的な学習の時間の探究的な授業づくり (福祉、世界遺産、環境を中心に)	・学校での勉強が楽しいと感じている。 学校生活アンケートの「学ぶ意欲」 全学年 1P以上	4	○課題を基に体験活動を実施し自分にできることは何か考えることができた。 △ESD推進のため、教科領域の横断的な学習の充実	A	○学校の自己評価は適切である。 ○福祉・世界遺産等に係る地域の行事に参加する姿が見られたことは、大きな成果であり、ESDの取組はこれからの大牟田の魅力ある教育の柱になると思う。	○今後再編で環境が変わり児童の人間関係が複雑になってくるので、学校、家庭、地域で連携してしっかりと見守っていきたい。 ○学校の取組を発信し、理解と協力を得られるようにする。
		○月の生活目標「あいさつをしよう」の年間3回 (4月、9月、11月) の実施	・「いつでも」「どこでも」「だれにでも」進んであいさつをすることができる。 達成率 80%以上	4	○挨拶名人をめざして意識が高まった。 △個人差がある。	A	○学校の自己評価は適切である ○挨拶名人の表彰で、子どもたちの意欲が高まってきたことがわかる。	○挨拶名人の取組を継続し、意欲を高めていく。
		○「南っ子10の約束」の中から重点的に取り組む項目を各学級で設定し指導と評価を繰り返す。	・「南っ子10の約束」における学習規律が身に付いている。 達成率 各項目 80%以上	3	○学級における課題を自分たちで振り返り解決方法を考えて生活改善につなげた。	A	○学校の自己評価は適切である ○学習規律は低学年からの習慣化を期待する。	○学習規律に関する教職員の共通理解を図る場を設定し、ベクトルをそろえた指導を目指す。
		○朝の10分間読書 (月、火、水、金) の実施 ・読書旬間の取組	・学年の目標冊数 読破 (低:150冊、中:100冊、高:70冊) 達成率 80%以上	4	○図書委員会の取組、図書室の環境整備の成果が貸出冊数の増加につながった。	A	○委員会の取組や先生方の読み聞かせ等による成果が見られた。今後も継続して行ってほしい。	○朝読や読み聞かせの取組を継続するとともに、環境づくりを整備する。
		○家庭学習強化週間の年間4回実施 ・チェックカードの活用	・家庭学習の定着 学年の目標時間 (低:30分、中:45分、高:60分以上)、 達成率 80%以上	3	○宿題に自学も取り入れ、進んで行う児童が増えた。 △個人差がある。	A	○学力を身に付けるには学校だけでなく家庭の協力も必要なので、取組は継続して行ってほしい。	○今後も小中連携による取組が効果的であると思う。
生徒指導の 充実	○いじめ防止対策委員会の実施 ○いじめチェックリストや学校生活アンケートによる早期発見と教育相談	・学校生活アンケート「友達との関係」 全学年 1P以上 (1.5P中)	4	○アンケートの結果を踏まえ、個別面談の実施や職員による児童理解会議の実施	A	○学校の自己評価は適切である ○いろいろな問題に先生方がとても熱心に動いてくださり有難かった。	○いじめ防止のチェック体制を今後も万全に実施して欲しい。 ○相談しやすい環境づくりの継続	
	○不登校児童への組織的な対応 ・アクション3をもとに対応 ・毎日の欠席状況等情報共有 ・学校生活アの結果分析と活用	・学校生活アンケート「登校意欲」 全学年 0.8P以上 (1.5P中) ・不登校児童 (30日以上欠席) 100%解消	4	○欠席状況に応じて電話連絡、家庭訪問を行い、職員で情報共有をしながら対応策を協議した。	A	○不登校児童の解消は、先生方の努力の成果だと思う。 ○登校意欲の数値をさらに高める工夫を望む。	○中学校や地域・関係機関とチームを作って取り組むことが必要。 ○登校期待を持たせる工夫をする。	
	○特別支援教育の充実 (対応の共有) ・毎月の児童理解についての会議実施と共通理解、組織的対応	・毎月1回の生徒指導・特別支援教育に関する児童理解会議の実施 100%	4	○SC、SSWの活用など関係機関と連携をとりながら組織的対応を行った。	A	○児童への対応や思いやりが適切であると感じられる。	○小中連携の充実のため合同研修会などを実施していく。	

【自己評価】 4：目標達成 (90%以上) 3：ほぼ達成 (70%~90%) 2：もう少し (60%~70%) 1：できていない (60%未満)
 【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

領域	評価計画		自己評価		学校関係者評価		改善計画	
	評価の観点	評価指標 (①取組指標または②成果指標)	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策	
総括的な評価	教育課程 学習指導	年間指導計画や週案等による共通理解・共通実践	確実な作成と提出の徹底	4	○年間指導計画をもとに、確実な週案提出による実施 ○講師や支援員の計画的な配置による授業の充実 △検証後の改善策の徹底実施と見取り	A	○学校の自己評価は適切である。 ○教職員の協働的な取組みが、充実した授業に繋がっている。 ○発達段階に応じた目標設定と組織的な取組みがなされている。	○学力と知能の相関分析による検証と個別対応の検討。 ○1学期の体力測定結果を重点化し、P D C Aによる2学期末の確実な検証。
		効果的な指導方法の工夫	研修の日常化(みがき合う活動の位置づけ)	4				
			講師の計画的配置	4				
		週案コメントによる学習指導への支援等	4					
	進路指導	職業イメージの育成	様々なGT招聘によるキャリア教育の推進	4	○多くのGTを招聘 △生き方に繋がるポートフォリオの工夫	A	○自己評価は適切でありG Tの活用は素晴らしい結果を生み出している。	○ポートフォリオの継続と効果的な活用の工夫
		GT 招聘後の書きまとめの位置づけ	4					
	生徒指導	生徒指導全般への組織的対応	生活アンケートと教育相談の実施	4	○定期的な報告と情報交換により、早期発見・早期対応 ○不登校気味の児童の全員解消 △挨拶のさらなる定着のための、相互評価と個別指導の徹底	A	○学校の自己評価は適切である。 ○細やかな指導のお陰で、子ども達は安心して学校生活を送ることができている。 ○児童の皆さんは、挨拶をよくされる。	○積極的な生徒指導の継続指導と個別指導の徹底。 ○積極的な生徒指導に関する地域との連携を推進するための情報共有の場の設定と工夫。
			毎月のチェックリストによる把握	4				
		積極的な生徒指導	組織的な早期発見・早期対応	4				
	基本的な生活習慣の指導	行事や休業日前の積極的な生徒指導	4					
	保健管理	保健衛生管理の充実	児童の疾病傾向の把握と事前指導	4	○養護教諭を中心に時間を有効に活用した保健指導 ○全国歯磨き大会・スポコン広場への参加・市スポーツの祭典参加(縄跳びの快挙) ○アレルギー会議の定期開催と適切な対応 △食事マナーの個別指導と家庭との連携	A	○学校の自己評価は適切である。 ○スポーツの祭典では素晴らしい活躍をされ、体力面での取組も成果として表れている。 ○小学校での給食指導の充実により、中学校での残食が少ないようである。	○市開催スポーツ行事への、より積極的な参加体制と保護者の送迎面の協力体制構築。 ○学校保健委員会の内容と参加対象者等の再検討と計画的な実施。
			全国歯磨き大会への継続参加	4				
市内各種事業への積極的参加			4					
学校給食		検食の実施、給食設備の衛生管理	4					
		食物アレルギー児童への適切な対応	4					
配膳など食事マナーの共通指導	4							
安全管理	安全対策の実施	毎月初め施設・設備の安全点検の実施	4	○各種安全点検の定期的な実施と安全面での積極的な対応 ○地域・保護者との安全面の情報交換・緊急連絡方法の改善	A	○学校の自己評価は適切である。 ○危険個所の情報交流等、地域連携がよくできており、危険個所にも素早く対応されている。 ○安心・安全も充実している。	○事故発生時の役割分担と連絡網の確認。 ○保護者との情報交換や意見交換の充実。	
		毎月1回以上の校庭・校舎内の巡回	4					
		見守り隊や保護者への緊急連絡等	4					
		各機関との地域安全情報の共有化推進	4					
特別支援教育	特別支援教育推進	特別支援教育推進委員会の毎月実施	4	○校外研修資料等の情報交換 ○特別支援教育支援員の配置並びに特別に支援を要する児童への個別対応	A	○学校の自己評価は適切である。 ○支援員の配置により、特別に支援を要する児童への対応もできている。	○発達障害児童等の理解や対応研修の実施と個別支援計画の小中連携による情報共有。	
		居住地交流の実施と交流の工夫	4					
		特別に支援を要する児童への対応	4					
組織運営	校務分掌の機能化	校務分掌組織図の整理・校内ファイルサーバーの効率的活用	4	○組織図の整理並びにファイルサーバーの有効活用による情報の共有化	A	○自己評価は適切であり、校務支援システムが効率よく活用されている。	○共通理解に基づく共通実践の継続と情報処理能力向上。	
研修	校内研修、一般研修推進	校内研修の推進(みがき合い活動)	4	○言語活動を中核に据えたみがき合い活動の位置づけや各種研修の実施	A	○自己評価は適切であり、校内研修の充実が、学力向上に繋がっています。	○言語に関する環境整備。 ○OFF-JTを活かす場の設定。	
		道徳・外国語活動等授業研究会の実施	4					
教育目標 学校評価	教育目標達成をめざす学校評価の実施	調査等を通して、可能な限りの数値化・可視化を図り客観的な把握	3	○数値化による目標達成状況を把握し、具体的な改善策の確実な実施	A	○自己評価は適切であり、数値化により、学校の努力の跡がよく見える。	○成果と課題を可視化するグラフィックのさらなる工夫。	
情報提供	情報提供の促進	定期の学校通信・学級通信等の発行	4	○各種通信の定期発行による情報発信 ○E S Dを中核とするMボードへの発信	A	○自己評価は適切であり、よく発信されている。今後お願いしたい。	○Mボードや緊急メール配信の地域関係者への配信拡充。	
		Mボードの発信拡充と受信者の増加	4					
保護者、地域等との連携	保護者・まち協・社協・連協・民児協を中心とした地域との連携	地域会議や行事への積極的参加	4	○E S Dを中核とした行事への積極的な参加と協力体制の確立 ○年間5回の小中連携による実施	A	○学校の自己評価は適切である。 ○地域行事への積極的参加と会議での情報共有による連携がとれている。	○地域行事への子ども達の積極的な参加体制の継続と指導者の育成。	
		地域懇談会への参加の呼びかけ	4					
		家庭生活習慣調査(年4回)実施	4					
教育環境 整備	教育環境整備の促進	教室、ワークスペース等の整備	3	△学習室利用方法等の若干の徹底 ○変化のある掲示物等の掲示の工夫 ○E S D関連コーナーの設置と更新 ○季節感のある学校花壇・学級園の整備 ○南北交流行事・再編コーナーの設置 ○再編に関わる校庭樹木等の計画的整備	A	○掲示物等は見易く、各教室・廊下等、とてもよい印象です。 ○除草や花壇等、よく整備されてる。 ○桜の木の撤去等、少し寂しい思いがある。	○校舎内外の案内掲示・環境整備・掲示方法等の工夫。 ○E S Dの各学年コーナーの整備とさらなる充実。 ○学校再編に関するメモリアルホールの整備と展示の工夫。	
		廊下や学年・学級の掲示等活用	4					
		ESD「つながり」コーナーの充実	4					
		学校花壇・学級園の整備	4					
		学校再編に関わる各種環境整備の情報交流並びにより良い推進	4					

◇評価について 【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである